

令和2年度

前期日程

中国語問題

【注意】

1. 問題冊子及び解答用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号は、各解答用紙の受験番号欄に正確に記入すること。
3. 問題冊子のページ数は、表紙を除き6ページである。ただし、最初のページは白紙である。脱落している場合は直ちに申し出ること。
4. 解答用紙は表紙を含めて5枚である。
5. 解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。枠からはみ出してはいけない。
6. 問題冊子の余白は、適宜下書きに使用してよい。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
8. 問題冊子は持ち帰ること。

I. 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

A 我是个好动的人：每回我身体行动的时候，我的思想也仿佛就跟着跳荡。我做的诗，不论它们是怎样的“无聊”，有不少是在行旅期中想起的。我爱动，爱看动的事物，爱活泼的人，爱水，爱空中的飞鸟，爱车窗外掣过的田野山水。星光的闪动，草叶上露珠的颤动，花须在微风中的①[yáodòng]，雷雨时云空的变动，大海中②[bōtāo]的汹涌，都是在触动我感性的情景。是动，不论是什么性质，就是我的兴趣，我的灵感。是动就会催快我的③[hūxī]，加添我的生命。

近来却大大的变样了。第一，我自身的肢体已不如原先灵活；我的心也同样的感受了不知是年岁还是什么的拘紧。动的现象再不能给我欢喜，给我④[qǐshì]。先前我看着在阳光中闪烁的金波，就仿佛看见了神仙宫阙——什么荒诞美丽的幻觉，不在我的脑中一闪一闪的掠过？现在不同了，阳光只是阳光，流波只是流波，任凭景色怎样的⑤[cànlǎn]，再也照不化我的呆木的心灵。我的思想，如其偶尔有，也只似岩石上的藤萝，贴着枯干的粗糙的石面，极困难的蜒着；颜色是苍黑的，姿态是僵强的。

我自己也不懂得何以这变迁来得这样的兀突，这样的深彻。

原先我在人前自觉竟是一注的流泉，在在有飞沫、在在有闪光；现在这泉眼，如其还在，仿佛是叫一块石板不留余隙的给镇住了。我再没有先前那样蓬勃的情趣，每回我想说话的时候，就觉着那石块的重压，怎么也掀不动，怎么也推不开，结果只能自安沉默！“你再不用想什么了，你再没有什么可想的了”；“你再不用开口了，你再没有什么话可说的了”，我常觉得我沉闷的心府里有这样半嘲讽半吊唁的谏嘱。

说来我思想上或⑥[jīngyàn]上也并不曾经受什么过分⑦[jùliè]的戟刺。我处境是向来顺的，现在，如其有不同，只是更顺了的。那么为什么这变迁？远的不说，就比如我年前到欧洲去时的心境：啊！我那时还不是一只初长毛角的野鹿？什么颜色不激动我的视觉，什么香味不兴奋我的⑧[xiùjué]？B 我记得我在意大利写游记的时候，情绪是何等的活泼，兴趣何等的醇厚，一路来眼见耳听心感的种种，哪一样不活栩栩的丛集在我的笔端，争求充分的表现！如今呢？我这次到南方去，来回也有一个多月的光景，这期内眼见耳听心感的事物也该有不少。我未动身前，又何尝不自喜此去又可以有机会饱餐西湖的风色，邓尉的梅香——单提一两件最合我脾胃的事。有好多朋友也曾期望我在这闲暇的假期中采集一点江南风趣，归来时，至少也该带回一两篇爽口的诗文，给在北京泥土的空气中活命的朋友们一些清醒的⑨[xiāoqiǎn]。但在事实上不但在南中时我白瞪着大眼，看天亮换天昏，又闭上了眼，拼天昏换天亮，一枝秃笔跟着我涉海去，又跟着我涉海回来，正如岩洞里的一根石笋，压根儿就没一点摇动的消息。C 就在我回京后这十来天，任凭朋友们怎样的催促，自己良心怎样的责备，我的笔尖上还是滴不出一点墨沈来。我也曾勉强想想，勉强想写，但到底还是白费！可怕是这心灵骤然的呆钝。完全死了不成？我自己在⑩[yihuò]。

(徐志摩《再别康桥：徐志摩精品集》，《自剖》，内蒙古文化出版社，2017，一部修正)

(1) 下線部 A～C を日本語に訳しなさい。

(2) 文中でピンインで表記した①～⑩に当たる中国語の漢字表記を答えなさい。

(3) 文中から抜き出した語句（出題文二重下線、10箇所）の発音をピンインで記しなさい。

Ⅱ. 次の文章を読んで以下の問いに答えなさい。特に指示がない限り、解答は日本語によること。出題の都合上、文章の一部をピンインで表記している。

著作権の関係により、公開しません。

(沈凤国，《北京文学》，2019年9期，一部修正)

- (1) 下線部①を日本語に訳しなさい。

- (2) 下線部②の内容について、どうしてそのように言えるのか、筆者の述べる理由を答えなさい。

- (3) 下線部③について、筆者はそれをどのような方法によって避けるべきだと述べているか、答えなさい。

- (4) 下線部④～⑦のピンインに当たる中国語の漢字表記を答えなさい。

- (5) この文章の中国語の題名として相応しいものを、「〇〇与××」の形式で考えて答えなさい。ただし、「〇〇」「××」はともにこの文章中で用いられている語句とすること。

Ⅲ. 次の全文を現代中国語に訳しなさい。

私はここ三〇年ほどはテレビをほとんど見ないし、持ってもない。これは日本の消費活動に不十分にしか参加しないことを自状することになるから言いたくないことだが、そのかわり、ラジオは大変よく聞く。つまり、文字は見ないけれども、ことばそのものはよく聞いていることは言っておかなければならない。

ことばそのものとは、大まかに言って、人が話すときに口から出てくるオトや、ラジオから出してくるオトのつらなりである。このオトのつらなり、オトそのものを最も自然にうつつし出そうと思うならば、ローマ字でうつすことである。

もし外国人で、ローマ字をふだん自分のことばで使う人ならば、日本語をゆっくりテープでまわして聞けば、その聞いたオトをローマ字でつづることになるだろう。

(田中克彦『漢字が日本語をほろぼす』角川マーケティング、2011)